

第6章 幼稚園教育・学校教育

1 幼稚園教育・学校教育の振興と充実

グローバルな視点で主体的に学び、社会に発信する子ども	
英語教育	<p>① 小学校の外国語教育において積極的にコミュニケーションを図る態度を育成し、言語や文化に対する理解を深めるために英語アシスタント（英語が堪能な地域人材）を3～6年生の各学級へ年間35時間派遣する。</p> <p>② 中学校の外国語教育において、「聞く・話す・読む・書く」を総合的に行う学習活動の充実を図るため、外国語指導助手（JET プログラム参加者）5名を派遣する。</p>
ICTを活用した教育	<p>① ICT活用に係る指導主事が市内の小中学校を学校訪問して指導・助言を行い、教職員のICT活用指導力の向上を推進する。</p> <p>② 整備されたICT機器を効果的に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、誰一人取り残さず、全ての児童生徒の可能性を引き出すための教育の実現に向けた授業改善を推進する。</p> <p>③ 市内小中学校に配置されたICT支援員と連携したり、研修講座及び校内研修を活用したりすることで、教職員のICT活用指導力を高め、児童生徒の情報活用能力の育成を図る。</p> <p>④ ICTシェアサイト*¹にICTを活用した実践例や授業活用案、ICT機器動画マニュアルなどを掲載し、市内の教職員に向け積極的にICT教育に係る情報発信を行う。</p> <p>*¹ 鈴鹿市教育委員会独自で立ち上げた、ICTを活用した実践事例やアイデアを共有し合うサイト</p>
アクティブ・ラーニングを導入した教育活動	<p>① 児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実践できるよう、国語科を中心に言語活動の充実を図り、授業改善に取り組む。学習指導要領で求められている資質・能力を育成する。</p> <p>② 各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るなど、カリキュラム・マネジメントを推進する。</p>
郷土教育	<p>① 郷土の豊かな自然、歴史、文化を学ぶため、地域と連携し、地域の人材や文化施設を活用した郷土教育を推進する。</p>
環境教育	<p>① 環境問題について理解するとともに、環境保全に配慮した主体的な行動ができる子どもを育成するため、体験的な活動を推進する。</p> <p>② 「学校環境デー」「チャレンジ・エコスクール」等の取組を通して、地域の実態に応じた特色ある環境教育を推進する。</p>

基礎・基本を身に付け、自ら表現する子ども	
キャリア教育	<p>① 一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を推進する。地域社会の協力を得て、各事業所等で様々な職場体験を推進するとともに、事前事後学習を教育課程に位</p>

	<p>置付け、教科を横断した取組を展開することで、地域社会の一員としての自覚を高め、キャリア教育の更なる充実を図る。</p> <p>② 学術・芸術・文化・スポーツ等の様々な分野で活躍する地域における人材等を、学校・幼稚園に派遣し、子どもたちが夢と希望をもち、生き方を考えたり学んだりすることができる「すずか夢工房ー達人に学ぶー」事業を教育課程に位置付けて実施する。</p> <p>③ 地域への関心と愛着を持って、将来、地域社会で活躍しようとする意欲のある生徒を育成するために、鈴鹿商工会議所と連携し、中学生企業見学会を実施する。</p> <p>④ キャリア・パスポートを活用し、児童生徒が学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことを通して、一人ひとりのキャリア形成と自己実現を図る。</p>
教科学習における授業改善	<p>① 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果を分析し、分析結果からわかる本市児童生徒の弱みを克服するとともに、学習指導要領で求められる力を身につけさせるため、「授業力 UP5★」を活用し、授業改善に取り組む。</p> <p>② 全小中学校で、「読解力」「記述力」を向上させるためのワークシートに取り組む。</p> <p>③ 本市児童生徒の課題となっている家庭学習の時間、読書時間、スクリーンタイムについて、学力向上分析シートを活用し、各校の取組を整理するとともに、成果に結びついた取組等の好事例を発信する。</p> <p>④ 児童生徒一人ひとりに応じた指導を行うため、算数・数学における習熟度別の授業や、国語科におけるティームティーチングの授業を取り入れる。また、よりきめ細かい支援が行えるよう、学習ボランティアの活用を促進する。</p> <p>⑤ 授業支援として、学力向上支援員を派遣し、若手教員の授業力や学級指導力を向上させることで児童生徒の学力の向上を図る。</p>
読書活動	<p>① 学校図書館巡回指導員や学校図書館ボランティア等と連携し、学校図書館運営や整備の支援を行う。</p> <p>② 学校図書館担当者の力量を高め、学校図書館活用の促進を図る。</p> <p>③ 日常的な読書活動を推進し、子どもたちが自ら学校図書館に出向き、本を手取るよう、様々な企画提案を行う。</p> <p>④ 本の貸出やイベントへの参加等を通じて、市立図書館と連携を図る。</p>

豊かな感性をもち、自律した子ども	
道徳教育	<p>① 道徳教育を、道徳科の時間を要として学校教育活動全体を通じて行う。道徳科では、道徳教育と関連を図りながら、道徳的諸価値についての理解を基に、自己の生き方についての考えを深める指導方法の工夫・改善に取り組む。また、主体的・対話的で深い学びを実現するため、考え、議論する道徳を目指す。</p>
文化・芸術活動	<p>① 作品展の実施 豊かな感性や情操を育むために、作品展を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術作品展 令和5年11月11日～13日(中学校) 令和5年12月 2日～ 4日(幼稚園・小学校)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書写展 令和6年 1月20日～22日 ・ 科学作品展 令和5年 9月 9日～11日 <p>② 音楽会の開催</p> <p>音楽を表現する喜びを味わい他校との交流を図るために、音楽会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校音楽会 令和5年12月 7日・8日 ・ 中学校音楽会 令和5年11月 6日
--	---

健康への意識を高め、健やかな体をもつ子ども	
体力・運動能力の向上	<p>① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を活用した授業改善</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施し、その結果を分析し、課題に対応した施策の実施や体育・保健体育の授業等の充実・改善に役立てる。</p> <p>② 部活動振興事業の実施</p> <p>部活動の補助、大会参加補助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鈴鹿地区中学校総合体育大会 令和5年 7月 8日～ 7月24日 (陸上競技は、8月28日、29日) ・ 三重県中学校総合体育大会 令和5年 6月25日～ 8月 2日 ・ 東海中学校総合体育大会 令和5年 8月 5日～ 8月10日 ・ 全国中学校総合体育大会 令和5年 8月17日～ 8月26日 ・ 鈴鹿地区中学校新人体育大会 令和5年10月 7日～10月22日 <p>③ 幼稚園における鈴鹿市版体力向上実践プログラム「きらきらタイム」の実施</p>
健康に関する教育	<p>① 健康教育の出前講座の実施</p> <p>性感染症の増加とその低年齢化に対処するため、中学生を対象に専門的な立場にある医師による出前講座を実施し、健康教育を推進する。</p>
食育	<p>① 栄養教諭等と食育担当者が中心となり、地域や家庭と連携した食育の授業を推進する。</p> <p>② 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導の全体計画を作成する。</p> <p>③ 学校給食等を活用した食育を推進する。</p>

命を尊重し、人の多様性を認め合える子ども	
特別支援教育	<p>① 5歳児健診後のフォローや学校・幼稚園・「すずっこスクエア」の連携、「すずっこファイル」の活用の推進等を行うことで、途切れのない支援ができる体制の充実を図る。</p> <p>② 通常の学級との交流・共同学習を通して共生社会の形成を進める。</p> <p>③ 通級指導教室の効果的な活用を進めるとともに、巡回指導やアウトリーチの取組を進め、通級による指導を充実させる。</p> <p>④ 鈴鹿市医療的ケア運営協議会を開催し、医療的ケアの実施体制の整備を推進する。</p>
安全教育	<p>① 防災リーダーを中心とした防災減災教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「わたしと家族の防災カルテ」の作成

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「危機管理マニュアル」「学校安全計画」の作成 <p>② 復興教育支援事業の実施 東日本大震災被災地との交流事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女川中学校との俳句・短歌交流 <p>③ 交通安全教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「交通安全教室」の開催 <p>④ 防犯教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加，体験型の「防犯教室」の実施 ・ 教職員を対象とした「不審者侵入対応訓練」の実施
--	--

学校，家庭と共に子どもを育む地域	
幼稚園・小学校・中学校 の一貫した学びの充実	① 中学校区において，交流会や合同研修会，公開授業を実施することにより，教職員の交流の促進を図る。

2 令和5年度研究主題一覧

(1) 幼稚園

園名	研究主題
国府	感じ、考え、育ち合う子どもの育成 － 3年保育においての人やものとのかかわりを通して －
加佐登	休園
白子	休園
旭が丘	すべての子どもたちが輝いていられる幼稚園をめざして － 集団のなかで多様な子どもたちの育ちを保障するための教育的配慮とは －
稲生	自分らしさを大切にしながら、友達と力を合わせる子ども！ － 自分の思いを言葉で表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の工夫 －
飯野	遊びこむ幼児を育むための環境の工夫と教師の援助 － つながり・学び・育ちあう －
玉垣	つながり育つ・みんなで育つ － 子ども理解を基点として －
神戸	気づき、試し、考えることを楽しむ子どもを育てる － 五感を使った直接体験や、自分らしく表現できる環境を通して －
栄	休園

(2) 小学校

校名	研究主題	教科・領域
国府	ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動する子どもをめざして － 子どもから出発する授業 －	算数科
庄野	自分の考えを わかりやすく伝え合う子どもの育成 － 全教科全領域を通して －	全教科 全領域
加佐登	どの子も「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」が味わえる算数科教育 － ICT機器を用いた学び合いのある授業づくりを目指して －	算数科
牧田	主体的に学び、表現できる児童の育成 － 数学的活動の工夫を通して －	算数科
清和	仲間とともにねばり強く学び続ける子ども － 主体的・対話的で深い学びを通して －	国語科 算数科
石薬師	相手の考えを聴き、自分の考えを伝え、共に学び合う子の育成 － 学び合うことで「わかった」「できた」「自分の考えが深まった」 などの実感がある授業づくり －	全教科
白子	「いきいきと学び合う子どもをめざして」 － 説明的文章を中心とした「わかる授業」づくりと 学習基盤の充実を通して －	国語科
鼓ヶ浦	自ら考え、学びあう子どもの育成 － わかりあう喜びを実感できる授業づくりを目指して －	国語科
旭が丘	言葉を正しく理解し、適切に表現する子の育成 － 土台となる知識と思考力・判断力・表現力等を養って －	国語科 全領域
桜島	思いや疑問を、実現・解決する子の育成 － 系統性を意識し、各教科の「見方・考え方」を捉えた 授業を通して －	算数科・社会科 理科・体育科
愛宕	主体的に問いをもち、対話を通して考えを深め合う子どもの育成 － 社会科・生活科を通して －	社会科 生活科
稲生	自ら考え、共に学び合う子どもの育成	算数科
飯野	主体的に学び合い、表現する子を育成する授業づくり － 国語科を中心に －	国語科
明生	自分の考えをもち、伝え合う子どもをめざして － ICT機器を活用した授業づくり －	全教科
河曲	考えることを楽しみ、学び続ける子の育成 － 一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業を通して －	算数科 全領域

一ノ宮	思いや考えを聴き合い、学びとつながりを深める子どもの育成 － 対話（聴き合い）によって学びが深まる授業づくり －	国語科
長 太	みんなで授業をつくる － 自分の考えをもち、自分のことばで伝え合い、ともに学び続ける子 －	人権教育
箕 田	子どもの主体性を生む、ICT を活用した授業デザイン － 学び合い、考えを豊かにしていく子どもの育成 －	全領域
若 松	自ら考え、豊かな関わりの中でともに学び合う子の育成	国語科
玉 垣	なかまと響き合い、ともに学び続ける子の育成 － 聴くこと・話すことを大切にしたい授業づくりを通して －	国語科
神 戸	主体的に学びに向かう子の育成 － 各教科の特質に応じた考える活動の工夫を通して －	各教科
合 川	対話を通じて、自分の思いや考えをもつ子どもの育成 － 考えをつくるための「しかけ」のある授業をめざして －	国語科 領域全般
天 名	思いや考えを伝え合い、ともに学びを深めていく子どもの育成 － 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、 自分の考えを広げるための読む活動 －	国語科
栄	一人ひとりがもてる力を出し、つながり、心が響き合う授業づくり － 「互いのちがいを認めあい、なかまとして つながろうとする子ども/教師」をめざして －	全教科 全領域
郡 山	考えを伝え合い、ともに学び合う子の育成 － 表現する（話す・書く）ことが楽しいと思える 授業づくりを通して －	国語科 算数科
鈴 西	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、よりよい社会や 人生を切り拓いていく児童の育成を目指して － 異年齢集団による学習を通して －	生活科 総合的な学習の時間
椿	「説明的な文章」を通じた豊かな表現力を育む授業づくり	国語科
深伊沢	人とのかかわりを大切に、主体的に学び合う子どもの育成 － ちがいを大切に、聴き合い話し合う活動を通して －	全教科 全領域
庄 内	自分の思いや考えをもち、進んで伝え合う子の育成 － 伝え合うための基礎基本の定着と、書く力を育てる指導の工夫を通して －	国語科
井田川	聴き合い、伝え合い、主体的に学ぶ子どもをめざして － 「わかる！」授業づくりと 安心して学び合える学級集団づくりを通して －	算数科

(3) 中学校

校名	研究主題	領域
平田野	学び合いにおける自己の考えを「表現する力」の育成 － 1人1台端末を生かして －	全領域
創徳	一人ひとりの学びを保障する － 読み取る力・表現する力の育成と家庭学習の充実を通して －	全教科 全領域
白鳥	互いに支え合い，ともに高め合い，活動できる生徒の育成 － わかる・伝える授業の実践を通して －	全教科 全領域
神戸	Heartful 神中 － 安心できる学校，夢中になれる授業を目指して － Peaceful － 安心して過ごせる －	全教科 全領域
大木	自ら学び続け，つながり合う生徒の育成 － 言語能力の育成を目指して －	全教科 全領域
千代崎	互いに高め合い，明日も笑顔で来たくなる学校の創造	全領域
白子	互いに認め合い，ともに学び，ともに生きる生徒の育成	全教科
鼓ヶ浦	支え合い，高め合い，未来に向かって学び続ける生徒の育成 － 「聴き合う関係」を大切にした対話的で深い学びの創造 －	全教科 全領域
天栄	つながりを大切にした学校活動の実践 － 主体的に取り組む生徒の育成をめざして －	全領域
鈴峰	「生徒の主体性を育てるための指導の工夫」 － 探究のプロセスと互いにつながりあう取組を通して －	授業を中心とした すべての教育活動

3 研究委託校(園)

(1) 鈴鹿市教育研究会研究委託校(園)・研究指定校(園)

① 令和4・5年度 [令和5年度発表校(園)]

	校(園)名	研究主題	教科領域	発表日
小学校	若松	自ら考え、豊かな関わりの中でともに学び合う子の育成	国語科	10/6 (金)
	一ノ宮	思いや考えを聴き合い、 学びとつながりを深める子どもの育成 －対話(聴き合い)によって学びが深まる授業づくり－	国語科	10/27 (金)
中学校	白鳥	互いに支え合い、ともに高め合い、 活動できる生徒の育成 －わかる・伝える授業の実践を通して－	全教科 全領域	11/17 (金)

② 令和5・6年度 [令和6年度発表校(園)]

	校(園)名	研究主題	教科領域
幼稚園	旭が丘	すべての子どもたちが輝いていられる幼稚園をめざして －集団のなかで多様な子どもたちの育ちを 保障するための教育的配慮とは－	全領域
小学校	牧田	主体的に学び、表現できる児童の育成 －数学的活動の工夫を通して－	算数科
	椿	「説明的な文章」を通じた豊かな表現力を育む授業づくり	国語科
中学校	千代崎	互いに高め合い、明日も笑顔で来なくなる学校の創造	全領域

(2) 文部科学省・三重県教育委員会研究委託校

名	称	指定年度	校名
令和5年度	地域と学校の連携・協働体制構築事業	令和5年度	全小中学校

4 特別支援教育

障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。

また、全ての子どもたちが、地域で共に生活し、共に学ぶ、より包括的な教育としての「インクルーシブ教育」の考えのもと、関係機関が連携を図りながら、その時点で最も適切な指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することにより、就学前から卒業までの途切れのない総合的な支援の充実を図る。

さらに、子どもがあらゆる教育の場で、一貫した適切な指導や支援を受けられ、子どもとともに保護者が総合的な相談・支援を受けられるよう、教育環境の整備の充実を図る。

(1) 各学校における特別支援教育を行うための体制整備

① 特別支援教育に関する校内支援委員会の設置

校長のリーダーシップのもと、教頭、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、対象児童生徒の担任、特別支援学級の担任、交流学級の担任、支援員、介助員等で構成し、「すずっこファイル」を活用しながら、対象児童生徒の実態把握や支援方策の検討等を行う。

また、学校が組織として機能するよう多様な機会をとらえて情報共有を行う。

② 「すずっこファイル」の活用

特別な支援を必要とする子どもたちに対して、途切れのない支援を推進するため、保護者へ「母子健康手帳」の交付の際に「すずっこファイル」を配布し、「すずっこファイル」の有効活用を進める。「すずっこファイル」は、生まれた時からの子どもの成長の経過や支援内容等を記録することができる。そして、小中学校に入り、支援を必要とする子どもには、これまでと同様に一貫した継続的な支援を図るため、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」などを作成し、円滑かつ確実な引継ぎに活用していく。



③ 特別支援教育コーディネーターの活用

特別支援教育を推進するために、保護者や、校内職員や、関係機関との連携の役割を担う、特別支援教育コーディネーターを各校が指名している。

④ 教員の専門性の向上

特別な支援を必要とする幼児児童生徒への教育支援の在り方についてや、特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任等をはじめ校内全体の資質向上のため

めの研修等を開催し、教員の専門性の向上を図る。

また、各校から市や県が主催する研修講座へ積極的に参加し、その内容を校内でフィードバックすることで、教員の特別支援教育への理解を深める。

(2) 教育委員会における支援

① 特別支援学級の現状

本年度、小学校では知的障がい学級 51, 自閉症・情緒障がい学級 42, 肢体不自由学級 11, 病弱学級 2, 難聴学級 2 で、計 108 学級、中学校では知的障がい学級 19, 自閉症・情緒障がい学級 14, 肢体不自由学級 2, 難聴学級 2, 弱視学級 1 で、計 38 学級を設置している。

② 通級指導教室の現状

児童生徒の在籍校や専門機関との連携のもと、それぞれのニーズに応じて、個別指導や保護者との相談等を行う。本年度は、言語通級指導教室（3校）、難聴通級指導教室（1校）、発達障がい等通級指導教室（5校）を開設している。送迎手段がなく指導を受けられない児童生徒のために巡回指導を行ったり、通級で学んだことを児童生徒が在籍校でより一層生かすためにアウトリーチを行ったりする等、環境を整備している。

③ 「特別支援教育コーディネーター会議」の開催

保育所、幼稚園及び学校による「特別支援教育コーディネーター会議」を開催し、学校（幼稚園・保育所）が抱える問題や現状を出し合いながら、よりよい学校（幼稚園・保育所）内の支援体制の在り方を検討・研修する。

④ 「特別支援教育プロジェクト会議」の開催

教育委員会事務局と子ども家庭支援課、小中学校長の代表者及び、アドバイザーとして大学教授が参加する特別支援教育プロジェクト会議で特別支援教育に係る課題や改善方法を検討し、今後の特別支援教育の方向性を示す。

⑤ 特別支援学校のセンター的機能の活用

一人ひとりの子どもたちに合わせた適切な支援を行うために、県立特別支援学校が実施している教育相談等を積極的に活用する。

⑥ 「医療的ケア運営協議会」の開催

年々増加傾向にある医療的ケア児の健やかな成長を図り、幼保小中の途切れのない支援を構築するために、医療的ケア運営協議会を開催する。学校段階間の円滑な接続ができるよう、児童や保護者が安心して過ごせる体制整備等について協議を行う。

(3) 子ども政策部における支援

① 5歳児健診や健診後フォロー及び就学後フォローの実施

市内全ての満5歳児を対象に、集団適応に課題を抱える児童の早期発見，早期支援のための健診を実施する。健診後は、在籍する幼稚園・保育所（園）や学校を訪問し、健診後フォローや就学後フォローを実施する。

② 「引継ぎ支援会議」の開催及び「引継ぎフォロー」の実施

在宅（発達支援事業所への通所児童含む）から幼稚園・保育所（園）へ、在宅や幼稚園・保育所（園）から小学校へ、小学校から中学校へなど、在籍機関が変わる時に、保護者や関係機関が参加し、以前の支援を引き継いでいくための会議（「引継ぎ支援会議」）を実施する。また、「引継ぎ支援会議」を実施した子どもが就学・進学した学校を訪問し、支援のための観察を行い、「引継ぎフォロー」を実施する。

③ 保護者や児童への支援

「すずっこスクエア」で、集団への馴染みにくさや苦手さなど、何らかの課題や心配をもつ児童と保護者の相談にのったり、児童の特性に応じたサポートをともに考えたりする。

④ 巡回相談の実施

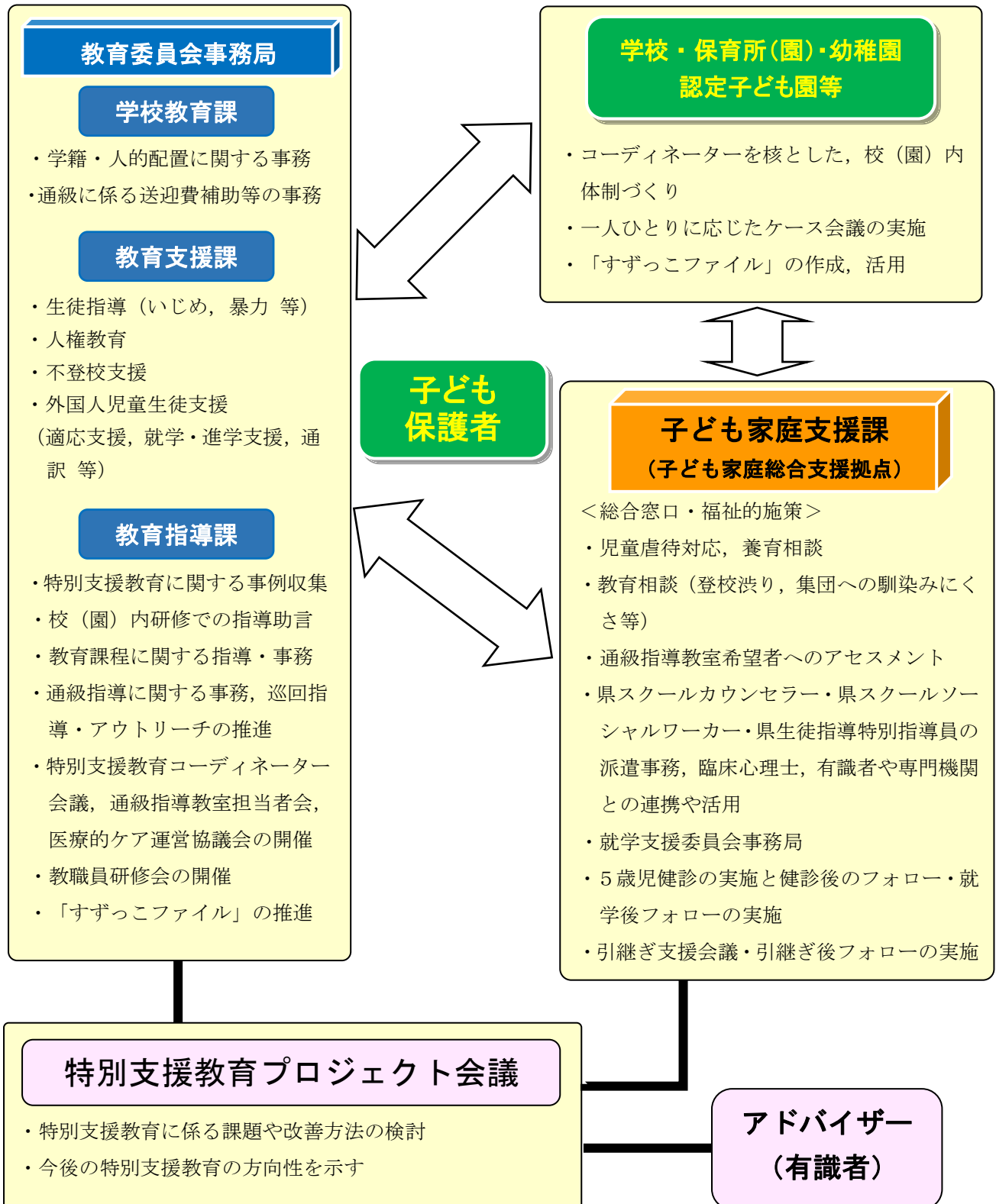
臨床心理士等を要請に応じて、学校、保育所（園）、幼稚園、認定子ども園等に派遣し、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒のアセスメントや指導内容・支援方法に関する助言等を行い、学校、保育所（園）、幼稚園、認定子ども園等における特別支援教育の充実を図る。

⑤ 就学支援委員会

就学支援委員会は、支援を要する幼児児童生徒が小中学校等に就学・進学するにあたって、その能力や可能性を伸ばし、社会参加や自立を可能な限り実現するための適切な就学判定を行う。（就学支援委員会は、医師、児童福祉施設等職員、県立特別支援学校教員及び市内小中学校教員、指導主事、その他委員会が必要と認める機関の職員で構成される。）

教育委員会事務局と子ども政策部の連携による 特別支援教育の推進

配慮が必要な子どもたちへ、よりよく途切れのない支援をするために、教育委員会事務局と子ども政策部が連携して対応する。



5 教育研究・教職員研修

鈴鹿の教育の質の向上を支えるため、教育に関する調査研究、教材開発、教職員研修、教育情報の収集・提供等の事業を行う。

(1) 教育研究・教材開発

鈴鹿市の教育課題を把握・分析し、本市の重点教育課題に対応した研究及び教材開発を行う。

- ① 全国学力・学習状況調査を活用した調査・分析を行う。
- ② 調査研究をもとに、教育実践に役立つ教育資料を作成し、ICT シェアサイトを通じて市内教職員に周知、共有する。

【令和5年度調査研究テーマ】

「ICTを活用した学校・家庭間のシームレスな学びの実現に向けて」
「非認知能力の育成」

- ③ 調査研究報告会を開催する。
- ④ 教職員のICT活用指導力向上のために、ICT機器を活用した授業での好事例をICTシェアサイトで紹介する。

(2) 教職員研修

これからの時代の教員に求められる資質・能力（教職に必要な素養、学習指導力、生徒指導力、特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応力、ICTや情報・教育データの利活用力）の向上を図るため、免許更新制の廃止に伴う新たな研修制度「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」を踏まえた、研修講座や教育講演会を開催する。

① 研修講座の編成方針

- 若手教員指導力向上研修、専門研修（教科等研修、校内研修活性化研修、職務研修）、テーマ別教育課題研修、管理職研修の4つの構成で研修講座を組む。
- 令和2年度から令和5年度までの4年間で、学習指導要領の理解に基づいた実践を定着させる視点に立ち、研修講座を充実する。
- 研修内容に応じて、集合型やオンライン型など多様な形態で研修講座を企画する。

- ・ 鈴鹿市の教育課題を把握し、その中で特に重点となる教育課題に対応した研修を計画的に実施する。
- ・ 学校・園における研修の充実に結び付く研修を行う。
- ・ 若手教員育成のための研修を充実する。
- ・ 今日的教育課題に即した管理職研修を充実する。
- ・ 教育委員会事務局だけでなく、健康づくり課や子ども家庭支援課等とも連携し、研修講座を企画していく。

② 研修体系

教職生活全体を通じて学び続ける教職員を継続的に支援するため、教職員がそれぞれのキャリアステージや職務に応じた、高度な専門知識、実践的指導力、人間力を高めることができる研修を実施する。

ステージⅠ	若手教員育成	<ul style="list-style-type: none"> ●授業づくりの基礎基本 ●授業力向上研修会
ステージⅡ	専門研修	<p>【教科等研修】</p> <p>学習指導要領の理解に基づく授業改善</p>
		<p>【校内研修活性化研修】</p> <p>校内研修の改善 対話と省察を柱とする授業研究会のマネジメント 校内研修の改善の共有と省察</p>
		<p>【職務研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教職員コンプライアンス ●メンタルヘルス ●アンガーマネジメント
ステージⅢ	テーマ別教育課題研修	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT を活用した教育 ●情報モラル教育 ●プログラミング教育 ●SDG s ●読書教育 ●コーチング ●学力向上 ●特別支援教育 ●読み聞かせ ●幼小連携 ●人権教育 ●不登校対策 ●生徒指導 ●日本語教育 ●道徳教育 ●多文化共生
		<p>管理職研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教職員の働き方改革 ●危機管理とリスク管理 ●学校経営
管理職	管理職研修	

ライフステージ

- I 基礎形成期（初任～教職経験 5 年次） II 伸長期（教職経験 6 年次～10 年次）
 III 充実期（教職経験 11 年次～20 年次） IV 発展期（教職経験 21 年次以降）

③ 令和5年度 研修講座一覧

ライフステージ

- I 基礎形成期（初任～教職経験5年次）
- II 伸長期（教職経験6年次～10年次）
- III 充実期（教職経験11年次～20年次）
- IV 発展期（教職経験21年次以降）

形式

- A 講演・講義型
- B 参加・体験型
- C 実技・演習型
- D 動画視聴型
- E 双方向オンライン

No	講座名	対象	校種	月	日	曜	講座概要	形式
----	-----	----	----	---	---	---	------	----

◆若手教員指導力向上研修…教職経験5年以下の若手教員の指導力向上をめざす研修

W-1	授業づくりの基礎基本	I	小中	9	8	金	子どもの思いを受けとめる授業	AC
W-2	授業づくりの基礎基本	I	小中	6	26	月	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり	AC
W-3	授業づくりの基礎基本	I	小中	10	23	月	(調整中)	AC
W-4	授業力向上研修会	I	小中	2学期			経験年数5年以下教員等の授業力向上研修会(中学校「数学」)	AC
W-5	授業力向上研修会	I	小中	2学期			経験年数5年以下教員等の授業力向上研修会(小学校「国語」)	AC

◆専門研修…教科等の指導力の向上と職務、分掌等の機能の充実をめざす研修

【A 教科等研修】

SA-1	全教科	全	小中	動画視聴型			授業力UP5★～子どもたちが主役の授業への概要について	D
SA-2	国語	全	小中	7	25	火	授業力UP5★に基づく授業づくり	AC
SA-3	社会	全	小中	7	24	月	授業力UP5★に基づく授業づくり	AC
SA-4	算数・数学	全	小中	7	24	月	授業力UP5★に基づく授業づくり	AC
SA-5	理科	全	小中	7	25	火	授業力UP5★に基づく授業づくり	AC
SA-6	外国語活動・外国語	全	小中	7	27	木	授業力UP5★に基づく授業づくり	AC
SA-7	体育(水泳)	全	小中	5	9	火	安全に配慮した水泳指導	C
SA-8	体育(器械運動)	全	小中	5	19	金	安全に配慮した器械運動指導	C
SA-9	道徳	全	小中	7	21	金	考え、議論する道徳	E
SA-10	国語	全	小中	8	28	月	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善	A
SA-11	算数	全	小中	7	28	金	教え込みの算数授業からの脱却～子どもと創る算数授業～	A
SA-12	社会	全	小中	8	21	月	地域の戦争遺跡へのフィールドワーク×授業づくり	BC
SA-13	社会	全	小中	8	21	月	フィールドワーク(家康の「伊賀越え」, 神戸城, 伊勢型紙)×授業づくり	BC
SA-14	理科	全	小中	7	27	木	主体的な学びを目指す理科の授業づくり	AC
SA-15	外国語活動・外国語	全	小中	8	22	火	小中学校英語授業づくりのヒント	AC

【B 校内研修活性化連続研修（全3回）】

SB-1	校内研修 活性化①	研修担当者+ 指導教諭	小 中	4	25	火	校内研修の改善	E
SB-2	校内研修 活性化②	研修担当者+ 指導教諭	小 中	8	22	火	対話と省察を柱とする授業研究会のマネ ジメント	AC
SB-3	校内研修 活性化③	研修担当者+ 指導教諭	小 中	1	23	火	校内研修の改善の共有と省察	E

【C 職務研修】

SC-1	教職員 コンプライ アランス	全	小 中 <small>(添削)</small>	動画視聴型			不祥事根絶に向けて	D
SC-2	アンガー マネジメ ント	全	幼 小 中	動画視聴型			アンガーマネジメント	D
SC-3	メンタル ヘルス	全	幼 小 中	動画視聴型			(調整中)	D

◆テーマ別教育課題研修…喫緊の教育課題に対応する教員の資質能力向上をめざす研修

T-1	ICT 活用	全	小 中	4	4	火	トワイライトクロムブック教室	BC
T-2	ICT 活用	全	小 中	4	5	水	トワイライトクロムブック教室	BC
T-3	ICT 活用	全	小 中	4	6	木	トワイライトクロムブック教室	BC
T-4	ICT 活用	全	小 中	4	7	金	トワイライトクロムブック教室	BC
T-5	ICT 活用	全	小 中	4	28	金	Chromebook の使い方超初心者向け研修	BC
T-6	ICT 活用	全	小 中	5	12	金	Chromebook の使い方超初心者向け研修	BC
T-7	ICT 活用	全	小 中	8	29	火	端末活用研修初級編 (Google for Education)	AC
T-8	ICT 活用	全	小 中	8	30	水	端末活用研修中級編 (Google for Education)	AC
T-9	ICT 活用	全	小 中	8	7	月	思っていたより簡単！クロムブックで の動画編集～初級編～	AC
T-10	ICT 活用	全	小 中	7	28	金	端末活用論から授業論へ	E
T-11	情報モラル 教育	全	小 中	7	21	金	デジタルシティズンシップ ～情報モラル教育の先へ～	E
T-12	プログラミ ング教育	全	小 中	8	8	火	プログラミング教育をアップデートしよ う！	AC
T-13	SDGs	全	幼 小 中	動画視聴型			SDGs 理解講座	D
T-14	SDGs	全	幼 小 中	8	7	月	教室から広がる SDGs ～SDGs×授業づくり～	AC

T-15	読書教育	全	小中	6	5	月	読書感想文の書き方指導	AC
T-16	コーチング	全	幼小中	8	28	月	子どもの主体的な学びを高めるためのコーチングと活用法	AC
T-17	学力向上	全	小中	8	30	水	全国学力・学習状況調査をふまえた授業改善	AC
T-18	特別支援教育	全	幼小中	8	8	火	発達障がいのある子どもも安心して過ごせる学級づくり	AC
T-19	読み聞かせ	全	幼小	7	25	火	朗読・読み聞かせ講座	A
T-20	幼小連携	全	幼小	7	24	月	みんなでつくる保幼小接続・連携～持続可能な取り組みにするために～	AC
T-21	人権教育①	全	幼小中	7	25	火	教育的に不利な環境のもとにある子どもを中心に据えた取組について	A
T-22	人権教育②	全	幼小中	7	27	木	2022年度神戸小学校の実践および校内研修体制づくりについて	A
T-23	人権教育③	全	幼小中	8	24	木	部落問題に学び、取組につなげるために	A
T-24	人権教育④	全	幼小中	8	25	金	なかまづくりを基盤とした「個別的な人権問題を解決するための取組」について～指導資料等の活用～	AC
T-25	人権教育⑤	全	幼小中	動画視聴型			LGBTQに関する基礎知識	D
T-26	不登校対策	担当者+全	小中	8	25	金	アセスメント力をアップする！～ソリューション・フォーカスト・アプローチを参考に～	AB
T-27	生徒指導	担当者+全	小中	8	24	木	自殺予防	AC
T-28	日本語教育	担当者+全	小中	8	29	火	鈴鹿市の日本語教育の取組～子どもたちが「話したい、読みたい、書きたい」と思える授業をめざして～	AC
T-29	多文化共生	全	小中	8	8	火	「ちがいを豊かさに」国際理解教育への招待 海外日本人学校の経験から	A
T-30	多文化共生	担当者+全	小中	2	2	金	多文化共生教育実践 EXPO	AC

◆管理職研修…学校組織のマネジメント力向上をめざす研修

K-1	働き方改革	管理職	幼小中	5	30	火	教員が笑顔でいられる学校づくり	E
K-2	危機管理とリスク管理	管理職	幼小中	9	28	木	学校における危機管理・リスク管理の在り方	E
K-3	学校経営	管理職	幼小中	1	29	月	カラフルで元気な学校づくり	E

◆学校経営連続講座…教育の動向を踏まえ、様々な教育課題に対応した学校づくりをめざす中堅教員及び教頭のための研修

G-1	学校経営連続講座①	ⅢⅣ	小中	5	11	木	学校経営連続講座 第1回	E
G-2	学校経営連続講座②	ⅢⅣ	小中	6	15	木	学校経営連続講座 第2回	E
G-3	学校経営連続講座③	ⅢⅣ	小中	6	27	火	学校経営連続講座 第3回	E
G-4	学校経営連続講座④	ⅢⅣ	小中	7	6	木	学校経営連続講座 第4回	E
G-5	学校経営連続講座①	教頭	小中	5	18	木	学校経営連続講座 第1回	E
G-6	学校経営連続講座②	教頭	小中	6	22	木	学校経営連続講座 第2回	E
G-7	学校経営連続講座③	教頭	小中	6	29	木	学校経営連続講座 第3回	E
G-8	学校経営連続講座④	教頭	小中	7	13	木	学校経営連続講座 第4回	E

◇メンタルヘルスについては、健康づくり課と共催で次のように実施

メンタルヘルス	全	幼小中	教職員研修サイト	児童生徒のSOSの出し方・受け止め方 (10代のメンタルヘルス)	D
---------	---	-----	----------	-------------------------------------	---

◇特別支援教育，教育相談，児童虐待防止については，子ども家庭支援課主催で次のように実施

教育相談研修会	全	小中他	6	9	金	子どものスマホ・ゲーム依存の防止とその対処について	E
特別支援教育研修会(基礎編)	全	小中他	6	9	金	授業づくりの基礎・基本研修	E
特別支援教育研修会(基礎編)	全	小中他	8	29	火	気になる子どもの支援とその保護者との関わりについて	AC
特別支援教育研修会(応用編)	全	小中他	2, 3学期			未定	
児童虐待防止研修会	全	小中	8	10	木	児童虐待の対応について	A
児童虐待防止研修会	全	幼	11	7	火	関係機関による児童虐待への対応の実際と市・児相との連携	E

④ 若手教員育成への支援

- 経験年数5年以下教員の指導力向上に向けて、指導・助言を行う。
- 若手教員を対象とした通信を発行し、学級指導や学習指導等の支援を行う。
- 公開授業研修会・学習会において、学級指導や授業力について助言する。

⑤ 教育講演会（鈴教研全員学習会）

非認知能力を育てるために学校・地域・家庭でできること 汐見 稔幸 (一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事)	全	イスのサン ケイホール 鈴鹿
---	---	----------------------

⑥ 鈴鹿市教育研究会との連絡調整

(3) 教育情報の収集・提供

教育図書・資料等の充実と教育サービスの一層の向上を図り、市内教職員の教育活動を支援する。

- ① 教育委員会事務局教育指導課研究グループだより「研究×実践」を通じた教育における情報の提供
- ② 教育資料の収集・保存，教育図書の貸出
- ③ 研究発表会の情報の提供
- ④ 教材，指導方法の相談等
- ⑤ 指導主事による学校訪問を通して，ICT活用に係る学校現場の実践を収集しICTシェアサイトに掲載